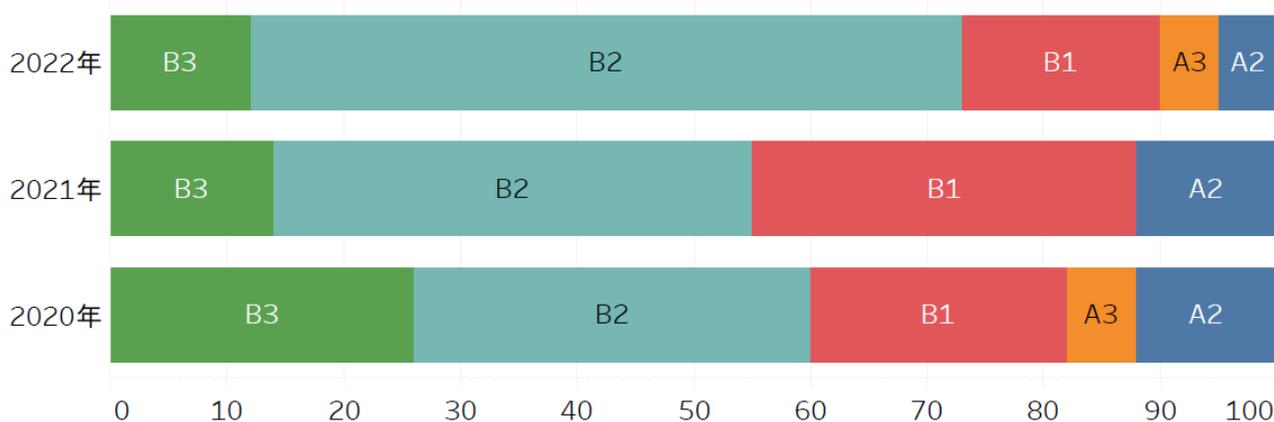


2022年 フェリス女学院 算数

各年の思考コード別出題割合は次のようになります。論理的思考力・応用力が求められる思考コード B の問題が中心です。例年通り、計算、一行題を含む大設問 5 題構成でしたが、B2 の出題が増え、難度が一気に跳ね上がりました。情報の読み取り・整理力、調査する力、情報を活用する力が試される重たい問題が並びました。そのため、問題を取捨選択する判断力が求められました。



大問 1 は、例年通り、計算、一行題でした。(2)②の食塩水は、等しい量の交換ではなかったため、手が止まった受験生がいたかもしれません。①を確実に取って、後回しにする方がよいでしょう。(3)は、書いて調べると、途中で規則に気づくことができますが、方針が立たなければ、アを確実に取って後回しでもよいでしょう。(4)は、等辺を利用して三角形 DEB を移動し、二等辺三角形 AEC に注目することがポイントでした。類題に触れた経験がなかった受験生には厳しい問題です。(5)は、並べ方が決して多いわけではないため、条件の通りていねいに調べることで答えにたどり着くことができます。ここは取っておきたい問題です。大問 1 だけでも B2 レベルの問題がほとんどを占めるため、ここでかなり時間がかかってしまった受験生も多かったと思います。

大問 2 は、ベン図を利用して整理することもできますが、うまく整理できない場合、それぞれの倍数を書き出して調べる方がはやかったかもしれません。①は、7 の倍数だけなので、確実に取っておきたい問題です。大問 3 は、一見仕事算に見えますが、速さの考え方を利用する問題です。A、B の速さの比がわかります。(1)は確実に取っておきたい問題です。大問 4 は、テキストでもよく見る「上り坂・平坦・下り坂」の問題です。類題に当たったことがあっても手ごわかったと思います。(1)は取っておきたいです。大問 5 は、問題の状況が理解しづらく、(1)から手が止まってしまった受験生も多かったと思います。また、時間に追われて、ここまでたどり着けなかった受験生も多かったと思います。無理に取り組もうとするよりは、前半の手付かずだった問題に時間を費やす方がよかったかもしれません。

高難度の問題が並び、息つく間がない 50 分だったと思います。焦って方針が立たなければ、深追いせずに大設問中の(1)だけ取り、自分にとって取り組みやすい他の問題に当たっていくことが大切でした。あくまでも予想ですが、大問 1(3)イ、ウ、大問 2(3)、(4)、大問 2②、③、大問 3(2)、大問 4(2)、大問 5(3)が取れなかったとしても、およそ 6 割には達することができると思います。